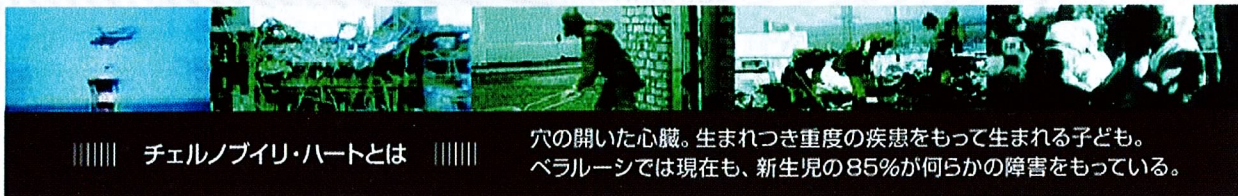


# それでも“安全”だと言えますか？

チェルノブイリ事故から16年後の2002年、ベラルーシ共和国——。  
「ホット・ゾーン」の村に住み続ける住民、放射線治療の現場、小児病棟、乳児院・・・  
今なお続く被爆被害の事実を追った渾身のドキュメンタリー。

## チェルノブイリ原発事故：1986年4月26日

旧ソビエト連邦（現ウクライナ）のチェルノブイリ原子力発電所4号炉の爆発事故により放射性降下物がウクライナ、ベラルーシ、ロシアを汚染した。現在もなお、原発から半径30キロ以内の居住が禁止され、北東350キロ以内に「ホット・ゾーン」と呼ばれる局所的な高濃度汚染地域が約100ヶ所も点在し、そこでの農業や畜産業は全面的に禁止されている。



||||| チェルノブイリ・ハートとは |||||

穴の開いた心臓。生まれつき重度の疾患をもって生まれる子ども。  
ベラルーシでは現在も、新生児の85%が何らかの障害をもっている。

事故から20年、原発事故後はじめて故郷に帰った青年は、廃墟となったアパートへ向かう。  
爆心から3キロの強制退去地域は、1986年で時間が止まったまま。

何もかも台無しにした原発事故。色あせた1986年のカレンダーを見つめて「近親者の10人がガンで死んだ。放射能とは無関係と言われることを、俺が信じるとする？俺もそうやって死ぬんだ。とんだ犬死だろ」とつぶやいた彼も、その1年後に亡くなった。享年27。



## マリアン・デレオ監督からのメッセージ

チェルノブイリ原発事故を題材に映画を撮った私には、フクシマの原発事故は「悪い夢」のように思える。  
「4半世紀に一度、事故が発生したとしても、それでも原子力発電は安全だ」と言う人がいる。  
同じ言葉をウクライナやベラルーシの人々に向かって言えるだろうか？  
彼らは何十年間も、残留放射能と共に暮らしている。  
この言葉を甲状腺ガンに冒された何千人ものティーンエイジャーたちに言えるだろうか？  
今はただフクシマが、第二のチェルノブイリになる前に収束することを切に祈る。

### マリアン・デレオ監督

ドキュメンタリー作家。エミー賞2回のほか数多くの受賞経験がある。「チェルノブイリ・ハート」は2003年米アカデミー賞ドキュメンタリー部門でオスカーを獲得。これまでにベトナム、グアテマラ、イラク他数十カ国での取材経験がある。湾岸戦争時には、イラク国内から未検閲の映像も持ち出した。

岩井俊二さん（監督）

放射能の恐ろしさとは・・・  
ここに来てもまだ自分の認識の甘さを知りました。  
(twitter より)

加藤登紀子さん（歌手）

人間は、少しずつ進歩していると思っていた。  
どこから道を間違えたのだろう。  
自然を力づくで壊してきた人間は今や自分という自然を破壊している！  
それでも最後まで言おう、命は美しいと！！

松田美由紀さん（女優）

放射能の恐ろしさ！  
本当にこれはジョークじゃない。  
心が折れない時には是非見て欲しい。  
(twitter より)

3/10(土)

映画上映：1回目 13時30分～ 2回目 18時00分～ ★今中哲二氏の講演は1回のみ 14時50分～  
会場：あいあいセンター6階ホール 〒640-8226 和歌山市小人町29番地 TEL・FAX (073) 432-4704  
参加協力券：1,000円 主催：原発がこわい女たちの会 TEL・FAX (073) 451-5960 松浦

メールアドレス：masa.matsuura@iris.eonet.ne.jp

## 原発がこわい女たちの会 結成25年のつどい

記念講演「今・福島とチェルノブイリを語る」

講師：今中哲二氏（京都大学原子炉実験所 助教）